

第11次上越市交通安全計画の取組状況及び次期計画の方向性について

I. 第11次上越市交通安全計画（以下、第11次計画）の取組状況について

1. 計画の概要

(1) 目標

令和7年までに年間の交通事故死者数を4人以下、重傷者数を42人以下とすることを目指す。

(2) 重点課題

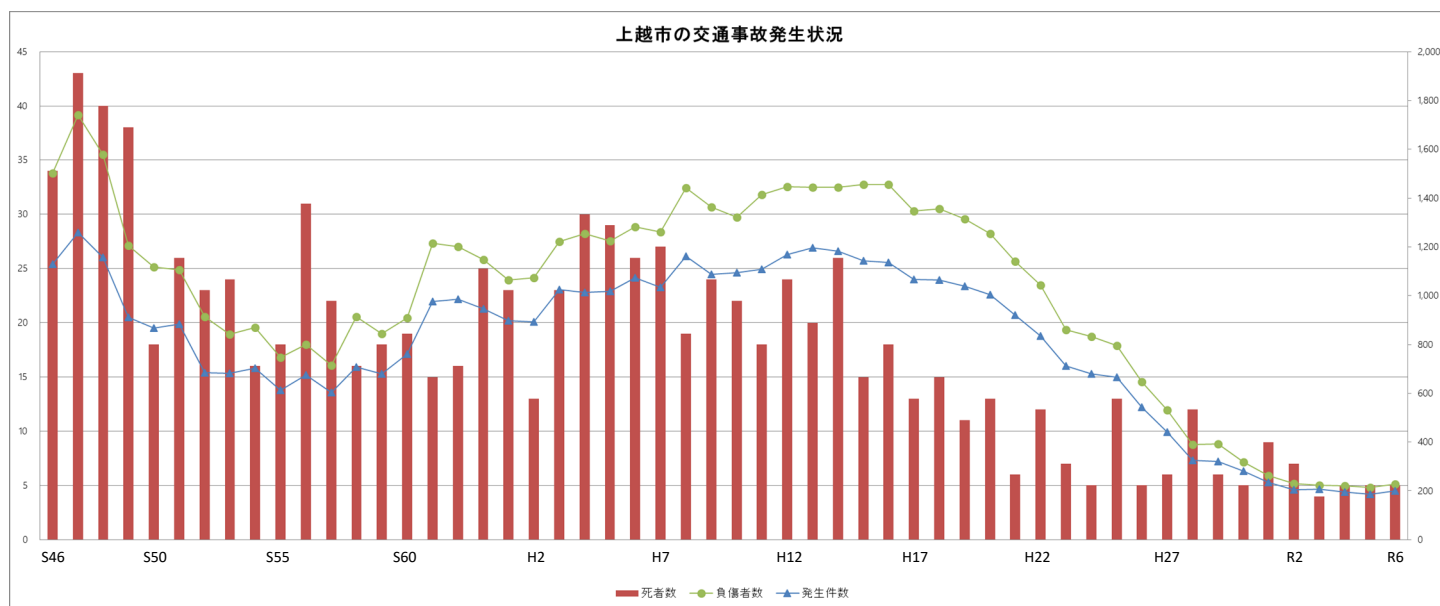
- ① 高齢者の交通事故防止
- ② 歩行者及び自転車の安全確保
- ③ シートベルト着用とチャイルドシート使用の徹底
- ④ 飲酒運転の根絶

2. 目標達成状況

	目標	R3	R4	R5	R6	R7. 5月末時点
死 者 数	4人以下	4人	5人	5人	5人	3人
重 傷 者 数	42人以下	54人	43人	37人	42人	13人

- ・死者数は令和6年まで目標を達成できない状態が続いており、令和7年5月末時点においても前年同数で推移しているため、目標達成が難しい状況となっている。
- ・重傷者数は、令和5年以降目標を達成しているほか、令和7年5月末時点においては前年を下回る数値で推移しているため、目標を達成できる見込みである。

（参考）昭和46年以降の市内の交通事故発生状況



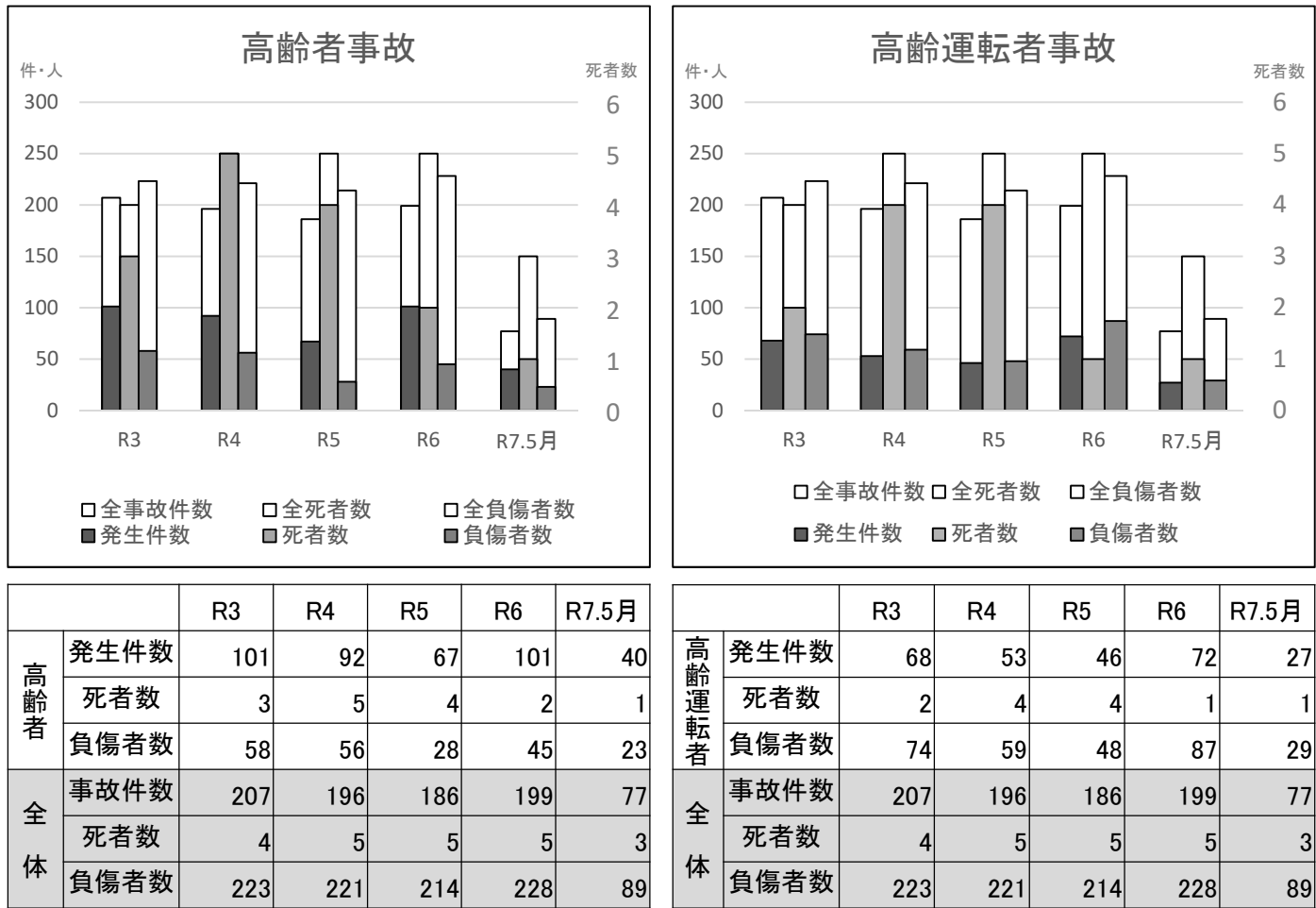
3. 全体評価

- ・昭和47年以降、増減を繰り返しながらも交通事故の発生件数・死傷者数は減少してきたが、第10次上越市交通安全計画（平成29年～令和2年）からは、目標とした死者数4人以下を達成できていない状況であり、引き続き交通事故防止に資する対策を推進する必要がある。
- ・交通事故全体に占める高齢者の割合が高い状態が続いており、今後も高齢化が進んでいくことから、高齢者に対する交通安全教育や啓発活動を一層進めていく必要がある。
- ・死者のうち、シートベルト・チャイルドシートの未着用者が半数程度を占めていることから、着用を促す取組を継続する必要がある。
- ・未だに飲酒運転を原因とする交通事故が無くならないことから、引き続き根絶に向けた取組を進めていく必要がある。

4. 第11次計画期間中の重点課題に対する主な取組と関連する交通事故の状況

(1)高齢者の交通事故防止

- ①主な取組
 - ・ 高齢者安全運転支援装置設置補助金の創設【新規】（市）
（交付申請件数…R4：577件、R5：433件、R6：318件）
 - ・ 高齢者世帯訪問の実施（警察・市）
（世帯訪問件数…R3：12,293世帯、R4：15,968世帯、R5：14,838世帯、R6：12,933世帯）
 - ・ 高齢者向け交通安全教室の実施（警察・市）
（教室実施回数…R3：19回、R4：22回、R5：26回、R6：41回）
 - ・ 予約型コミュニティバス（フルデマンド形式による運行）の導入【拡充】（市）
（導入路線数…R4：2路線（安塚区、牧区）、R6：2路線（浦川原区、大島区））
- ②計画期間中の交通事故等の状況
 - ・ 全死者数に占める高齢者の割合が高く、令和5年までは80%を超えている。
 - ・ 全事故に占める高齢運転者が起こした事故の割合が約30%程度で推移している。



- ③今後の方向性
- 安全運転支援装置の普及や、予約型コミュニティバスの導入及び利用促進、交通安全教室等の実施による交通安全意識の向上を図ってきたものの、交通事故全体に占める高齢者が関与する事故の割合が高い状態が続いていることから、引き続き高齢者の交通事故防止対策を進める必要がある。

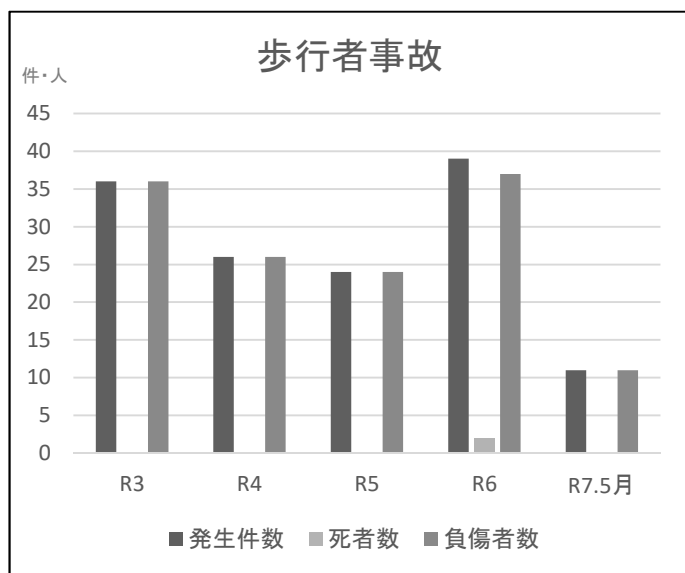
(2)歩行者及び自転車の安全確保

①主な取組

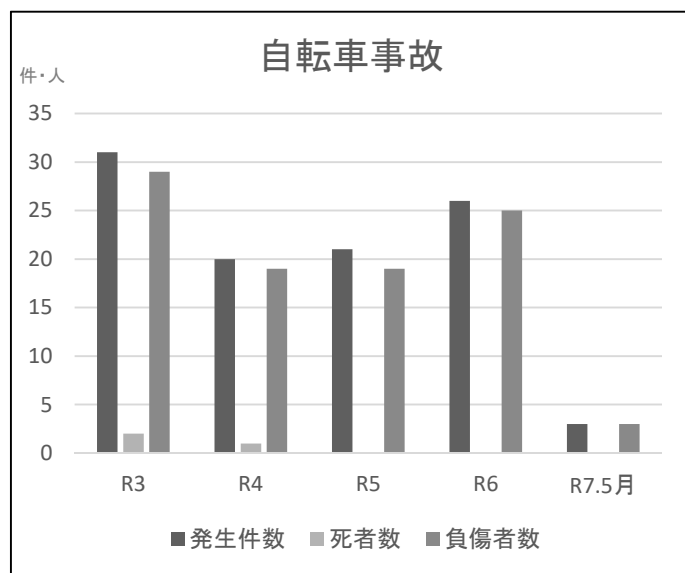
- ・歩道整備（県・市）
（整備延長…R3：2,656m、R4：1,875m、R5：1,369m、R6：567m）
- ・道路照明の設置（県・市）
（設置数…R3：1基、R5：10基、R6：3基）
- ・歩行者及び自転車安全教室・講話の実施（警察・市）
（教室・講話実施回数…R3：246回、R4：262回、R5：281回、R6：275回）
- ・横断歩行者妨害の取締強化（警察）
（取締件数…R3：140件、R4：193件、R5：128件、R6：409件）

②計画期間中の交通事故等の状況

- ・歩行者事故、自転車事故ともに令和5年まで減少傾向であったが、令和6年に増加した。
- ・JAFの調査によると、新潟県では信号機のない横断歩道での一時停止率が令和3年以降低下し、令和5年には全国最下位となる23.3%を記録した。



	R3	R4	R5	R6	R7.5月
発生件数	36	26	24	39	11
死者数	0	0	0	2	0
負傷者数	36	26	24	37	11



	R3	R4	R5	R6	R7.5月
発生件数	31	20	21	26	3
死者数	2	1	0	0	0
負傷者数	29	19	19	25	3

③今後の方向性

道路整備や年代に応じた交通安全教室等の実施により道路環境の改善、交通安全意識の高揚を図ってきたものの、歩行者や自転車に関与する事故が無くならないことから、引き続き交通安全教育や・自転車利用の正しいルール・マナーについての啓発活動を進める必要がある。

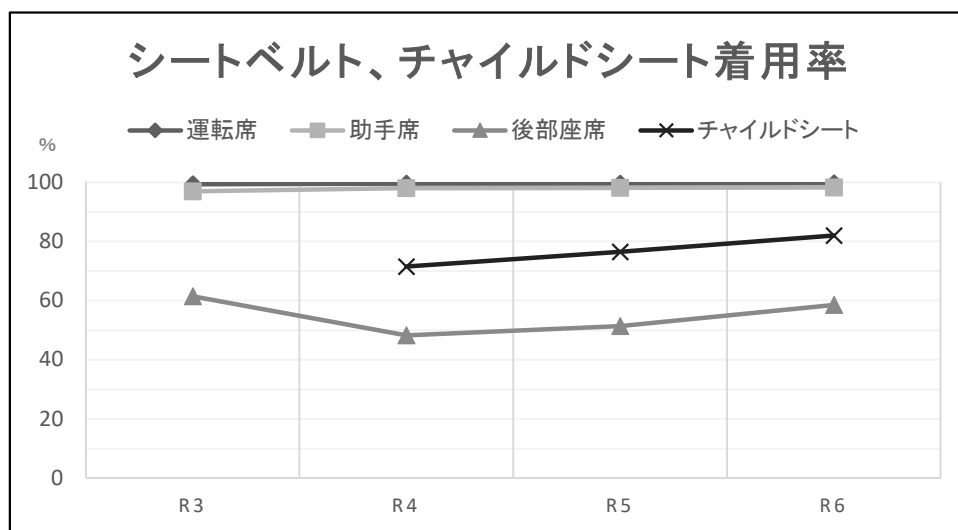
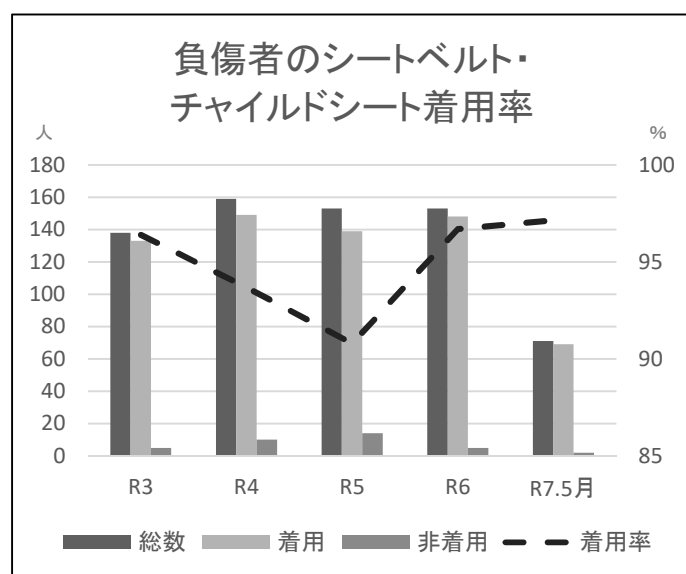
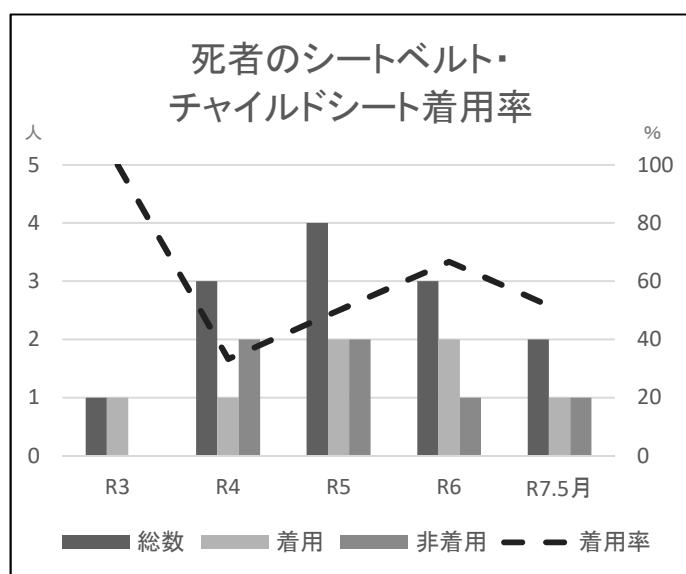
(3)シートベルト着用とチャイルドシート使用の徹底

①主な取組

- ・シートベルト非着用者及びチャイルドシート不使用者の取締（警察）
（取締件数…R3：316件、R4：360件、R5：243件、R6：124件）
- ・ドライバー向けの交通安全教室及びシートベルト着用、チャイルドシート使用に関する広報啓発活動の実施（警察・市）
（実施回数…R3：444回、R4：363回、R5：295回、R6：308回）

②計画期間中の交通事故等の状況

- ・死者のうち、半数程度はシートベルトやチャイルドシートを着用していない。
- ・シートベルト着用率について、運転席及び助手席はほぼ100%の着用率であるが、後部座席は50～60%台で推移しており、着用が徹底されていない。
- ・チャイルドシート着用率について、R4以降向上してきている。



③今後の方向性

運転席、助手席の着用率は100%に近い着用率であり、チャイルドシートの使用率は年々向上してきているものの、後部座席の着用率は依然として低く、死者の半数程度はシートベルト・チャイルドシートを着用していないことから、引き続き使用を促す取り組みが必要である。

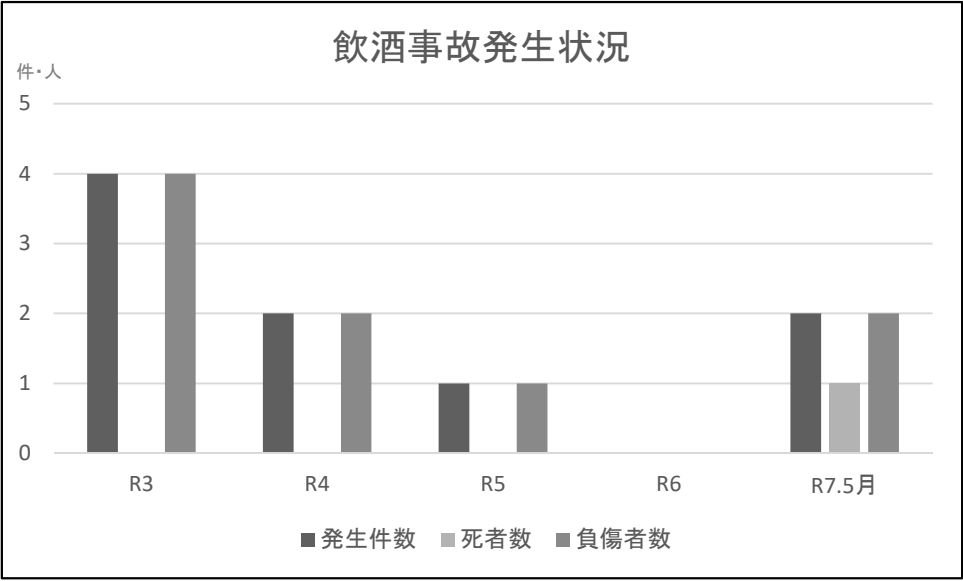
(4)飲酒運転の根絶

①主な取組

- 交通安全教室、講話及び広報啓発活動の実施（警察・市）
（実施回数…R3：43回、R4：71回、R5：87回、R6：99回）
- 飲酒運転周辺三罪（同乗罪・車両提供罪・酒類提供罪）を含む飲酒運転の取締（警察）
（検挙件数…R3：22件、R4：22件、R5：29件、R6：23件）

②計画期間中の交通事故等の状況

- 飲酒運転による事故の発生件数は令和5年までは減少傾向にあり、令和6年には0件となったが、令和7年においては5月時点で死亡事故が1件発生している。
- 毎年20件以上飲酒運転で検挙されている



	R3	R4	R5	R6	R7.5月
発生件数	4	2	1	0	2
死者数	0	0	0	0	1
負傷者数	4	2	1	0	2

③今後の方向性

啓発活動や取締りの推進により、一定程度の成果をあげてきたが、未だに飲酒運転を原因とする交通事故が無くならないことから、引き続き根絶に向けた取り組みを進める必要がある。

Ⅱ. 第12次上越市交通安全計画の方向性について

基本的には上位計画である新潟県交通安全計画を基に作成を進めていくが、当市としては以下の点を踏まえて作成する。

(1) 計画の考え方（案）

- 人命尊重の理念に立って、人優先の交通安全思想の普及を図る
- 計画期間：5年（令和8～12年度）
- ※国、県ともに基本的には計画期間を5年としていることから、5年とする予定。

(2) 計画の目標（案）

- 令和12年までに年間の交通事故死者数を4人以下、重傷者数は県の目標値を本市の人口で按分した数値を目標とする。
- ※死者数は、第10次以降目標を達成できていないことから、引き続き同じ目標とする。
- ※重傷者数は、本計画の目標を達成できる見込みであることから、新たに県の目標値を参考に設定する予定。

(3) 重点課題（案）

第11次計画の検証を踏まえた上で、継続性を考慮して以下の4項目を重点課題とし、それぞれの施策を展開する。

- ① 高齢者の交通事故防止
- ② 歩行者及び自転車の安全確保
- ③ シートベルトとチャイルドシート着用の徹底
- ④ 飲酒運転の根絶

(4) 第12次上越市交通安全計画の施策で考慮すべき事項

自転車の交通違反に対する交通反則通告制度（「青切符」）の導入や、新たなモビリティの登場、生活道路の最高速度の引き下げ、高齢ドライバー・外国人ドライバーの増加など、新たな制度や課題が発生してきていることから、情勢に合わせた対策を実施する必要がある。

Ⅲ. 今後のスケジュール（予定）

10月上旬	第12次上越市交通安全計画素案作成、関係機関等に意見照会
11月上旬	第2回 上越市交通安全対策会議【素案の審議】
12月中旬	上越市議会 所管事務調査実施
12月下旬	パブリックコメント実施
R8.2月中旬	第3回 上越市交通安全対策会議 【所管事務調査及びパブリックコメントを受けての計画案審議】
R8.3月下旬	第12次上越市交通安全計画 公表